

様式第8号

事業報告書

団 体 名	認定NPO法人時ノ寿の森クラブ
事 業 名	森林・里山環境を活用した乳幼児と保護者の子育て支援プログラムの実施
事業内容 (実施内容とスケジュールを具体的に記載)	*全プログラムの開催時間：10時～13時 ①森の生きものとふれあい&フォトスタンドづくり ・7月20日(木) @パンダひろば ・10組23人(大人11人、子ども12人)参加 ・絵本の読み聞かせ、時ノ寿の森に生息する生きもの(サワガニ等)や植物に五感を使いふれあい、森の素材でフォトスタンドづくり、木のおもちゃコーナーでスタッフによる子どもの見守り。 ②沢遊び&生きもの観察 ・8月3日(木) @時ノ寿の森 ・7組18人(大人9人、子ども9人)参加 ・絵本の読み聞かせ、沢の水の感触を確かめながら沢遊び、隠れているサワガニ、カエル探し。生きもの観察。 ③葉っぱあそび&草木染め体験 ・9月7日(木) @パンダひろば ・9組21人(大人10人、子ども11人)参加 ・絵本の読み聞かせ、時ノ寿の森の樹木の葉っぱを使った遊び、藍の葉でハンカチのたたき染め体験、木のおもちゃコーナーでスタッフによる子どもの見守り。 ④里山さんぽ&焚き火で調理体験 ・10月5日(木) @まつんば ・7組16人(大人8人、子ども8人)参加 ・絵本の読み聞かせ、施設周辺の里山を散歩し、栗拾い、草花や虫の観察、焚き火でふかし芋・麦茶づくり、試食。 ⑤里山さんぽ&ママの健康体操 ・10月19日(木) @まつんば ・4組9人(大人4人、子ども5人)参加 ・絵本の読み聞かせ、ママたちに畳の上で日常できる健康体操レクチャー、木のおもちゃコーナー、畑で野菜の収穫体験、里山の散歩。

	⑥ヤギとおさんぽ&落ち葉プール ・ 11月9日(木) @時ノ寿の森 ・ 7組16人(大人8人、子ども8人)参加 ・ 絵本の読み聞かせ、ヤギのエサやり・ふれあい・散歩体験、落ち葉を集めて落ち葉プール体験。 ⑦里のおさんぽ&クリスマスクラフト ・ 12月14日(木) @パンダひろば ・ 9組22人(大人11人、子ども11人)参加 ・ 絵本の読み聞かせ、施設周辺を散歩しながらリースの材料集め、集めた材料でクリスマスリースづくり、木のおもちゃコーナーでスタッフによる子どもの見守り。 ⑧焚き火&シイタケの菌打ち ・ 1月18日(木) @時ノ寿の森 ・ 7組18人(大人9人、子ども9人)参加 ・ 絵本の読み聞かせ、冬の里山仕事である原木シイタケの菌打ち体験、焚き付け集め、マッチ体験、起こした焚き火で干し芋・芽キャベツを焼き、試食。 * 別紙【写真帳、事業PR動画、ママライターによる事業紹介ブログ記事、アンケート8回分参照】 (※ 実施内容のわかる資料・写真・新聞記事等を添付してください。)
事業成果 (事業計画に記載した目的、成果目標及び波及効果に対する達成度等)	1. 事業目的及び成果目標に対する評価 ①保護者の自然体験へのハードルを下げる。 →・本事業8回に参加した親子の組数(実数)は23組で、その内2回以上のリピートが14組あり、6割を超えた事と参加者アンケートや感想から、「安心して参加できた」との声を多数もらい、自然体験のハードルを下げる事ができた。 ②乳幼児期の発達・発育にとって自然体験の必要性の理解を深める。 →・参加者アンケートより「自然の中で子どもが五感を使った体験をする事で、普段見られない子どもたちの成長や新たな一面に気づく事ができた。」などの声が多く自然を活かした子育ての可能性に気づく人が多くいた。それと同時に「公園等の身近な場所でも実践できると感じた。」という感想があり、本プログラムの参加をきっかけに普段の生活の中でも自然を活かした子育ての輪が広がっていくことが期待できる。 ・また、保護者から「子どももいい経験になっているが、親の自分も楽しみ、普段の生活から離れて気持ちをリラック

	スできた。」など声が上がり、親子にとって自身の五感で自然に触れあうことの大切さの理解が深まった。 ③地域との連携によるプログラム提供体制を構築 →・プログラム開催中は、子育て支援のプロと森林や自然ガイドのプロ、それぞれの持ち味で参加者との関わりを持ち、地域主体のプログラムを構築できた。 全プログラム終了後に開催した反省会で、パンダひろばと次年度以降も連携し継続開催していく方針が確認できた。 2. 波及効果の達成度 ・アンケートから、市外から移住し地域とのつながりがあまりなかった親子が、プログラムをきっかけに、掛川の魅力を感じることができた。さらに、子育て支援センター等の利用のきっかけにもなり、一人で悩まず頼れる環境がある事を知り、掛川が安心して子育てできる環境であることの理解が深まった。今後、継続していくことで更なる広がりが期待できる。
事業期間	令和5年6月28日 ～ 令和6年3月13日
今後の事業展望 (反省点・改善点、短期及び中長期のビジョン、継続性・財源確保等)	・まだ活動へのハードルを感じる人は多いが、今年度の活動を通じて制作したPR動画やママライターのプログラム紹介記事を活用し、参加を躊躇する人の背中を押すような情報発信をしていきたい。 ・運営体制の基盤はできたが、地域で子育てを応援する環境づくりとして、本事業により多様な地域住民と関わりを持たせていきたい。 ・より多くの親子に参加機会を提供するため、当日を含むキャンセルとキャンセル待ちのマッチングの方法を模索したい。 ・本子育て支援事業は、受益者負担と公的負担によって財源を確保していきたいと考えている。公的負担については、将来的に個人や企業、団体等の協賛を受けれるようにしていきたい。